コカ・コーラウエストジャパングループ

私たちにできるのは、環境への思いやり。

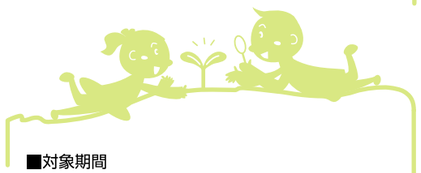
Eco Report 2005

2004年度

環境報告書

CONTENTS《目次》

目次、対象会社概要…… 1
私たちの基本理念、私たちの行動指針…… 2
ごあいさつ…… 3
私たちが目指す人と社会と自然との調和…… 5
地域社会と共存する、私たちの事業と環境活動… 7
私たちの事業と環境とのかかわり…… 9
3つの視点を基本にした 私たちの取り組み……11
環境保全活動を支えるグループの仕組み……12
地球温暖化対策……13
循環型社会の実現……19
地域貢献活動の推進……23
環境会計……25
第三者審査報告書、環境保全活動への取り組み…26



■対象期間

2004年1月1日～2004年12月31日
（掲載項目の中には、一部対象期間外のものも含まれています）

■編集方針

この報告書は、コカ･コーラウエストジャパングループの2004年度の活動結果をもとに作成したものです。読者の皆さまの視点に立ち、簡潔で分かりやすい報告書を目指しました。作成に当たっては環境省発行の「環境報告書ガイドライン2003年度版」を参考にしています。

■次回発行予定

2006年3月

対象会社概要（2004年12月31日現在）

	CCWJ	プロダクツ	ビバレッジ	ベンディング	カスタマー	ロジコム	ニチベイ	鷹正宗	WJS
本社所在地	福岡市東区箱崎七丁目9番66号	佐賀県鳥栖市轟町字二本松1670-2	福岡市東区箱崎ふ頭五丁目1番6号	福岡市東区松田二丁目2番32号	福岡県古賀市谷山871番地	広島市中区東千代田町二丁目11番20号	佐賀県鳥栖市藤木町字若桜6番9号	福岡県久留米市大善寺町黒田297番地	福岡市東区箱崎七丁目9番66号
資本金	152億31百万円	1億円	1億円	80百万円	22百万円	70百万円	80百万円	90百万円	60百万円
売上高（2004年度）	1,950億66百万円	65億92百万円	210億75百万円	59億57百万円	69億39百万円	91億25百万円	3億49百万円	49億14百万円	8億90百万円
従業員数	1,795人	354人	468人	934人	388人	634人	21人	36人	12人
主な事業内容	コカ･コーラ、スプライト、ファンタおよびジョージア等の飲料の製造･販売	飲料の製造	飲料の販売	自動販売機のオペレーション業務	自動販売機関連事業	貨物自動車運送業	食品の加工	酒類の製造･販売	保険代理業、リース業、不動産関連事業

CCWJ　：コカ･コーラウエストジャパン株式会社
プロダクツ：コカ･コーラウエストジャパンプロダクツ株式会社
ビバレッジ：西日本ビバレッジ株式会社
ベンディング：コカ･コーラウエストジャパンベンディング株式会社
カスタマー　：西日本カスタマーサービス株式会社
ロジコム　：ロジコムジャパン株式会社
ニチベイ：株式会社ニチベイ
鷹正宗　：鷹正宗株式会社
WJS　：ウエストジャパンサービス株式会社

Eco Report 2005

環境好感度No.1企業へ

私たちの基本理念

コカ･コーラウエストジャパングループは、
責任ある企業市民としての自覚のもとに、
人間･社会･自然の調和を常に大切にしながら事業活動を推進します。
海と山に囲まれた自然豊かな中国･北部九州地区で
清涼飲料の製造･販売と、それにかかわる各種事業を行う私たちは、
環境美化･環境保全･資源のリサイクルに努めることが
お客さまや地域社会に対する責務と認識しています。
全社員がそれぞれの職場で自ら責任を持ち、
安心して暮らせる豊かな社会の実現に貢献します。

私たちの行動指針

1　クリーンで安全な商品･サービスを提供します。
2　エネルギー使用の効率化を推進し、地球温暖化を防止します。
3　水を有効に活用し、水資源の保護に努めます。
4　廃棄物の削減･リサイクルに努め、循環型社会の実現に貢献します。
5　環境保全･資源のリサイクルに優れた資材の購入に努めます。
6　地域における環境活動に積極的に取り組みます。
7　環境教育･広報活動を通じ、人材の育成に努めます。

ごあいさつ

全社員が強い意志を持ち、豊かな社会づくりに貢献します。

環境に対する私の想い

私どもコカ・コーラウエストジャパン（CCWJ）グループは、中国地区・北部九州地区で、コカ・コーラを中心とする清涼飲料等の製造・販売と関連事業を行っています。事業エリア内の瀬戸内海、有明海は今では資源豊かな美しい海ですが、私は社会人になって間もないころの荒涼とした景観を忘れることができません。まだ誰もが環境保全の意識に乏しかった高度経済成長期、瀬戸内海では赤潮が大量発生し、有明海の南では水俣病が社会問題化するなど汚染のピークにありました。その後、企業のさまざまな環境負荷削減活動と規制強化への対応ののち、長い年月を経て、ようやく今のような美しい海に戻ったのです。

この経験から私は、企業はいかなる時でも環境保全に最大限努力しなければならない、と考えるようになりました。もはや環境の悪化が許されることはありません。さらに今日では、地球温暖化や資源枯渇など、企業の環境に与える影響は周辺地域にとどまらず、生態系の持続性の観点からも地球規模で考えなければならないのです。したがって、私は以前にも増して環境保全を経営上の最重要課題と考えており、このことを経営戦略や予算に反映させるべく、あらゆる機会を通じて全社員に伝えています。

社員全員参加で実践

私どもはこれまで、清涼飲料ビジネスにかかわる主要な環境負荷は水の使用、エネルギーの使用、廃棄物の発生の3点と考え、これらの削減に努力してきました。その結果、2004年度も工場で使用する水の3分の1を循環使用し、排水水質は高レベルで法規制を遵守しています。廃棄物については、全工場でゼロエミッションを達成。一昨年末に完成した「北九州さわやかリサイクルセンター」は昨年8,400トンの空容器を再資源化し、今年から人工島「福岡アイランドシティ」で発生する空容器の100%リサイクルを実現します。エネルギーは、全工場で製造の各工程における使用状況分析が終わり、工程別のエネルギー使用削減に取り掛かっています。さらにオフィスや車両でも環境負荷削減に積極的に取り組むため、CCWJグループ全体でISO14001認証取得を進め、2004年度末までに9社中7社が認証取得を完了しました。

そして、さらなる環境保全の推進のため、昨年度に「温室効果ガス削減計画」を策定しました。2007年度までに温室効果ガス排出総量を2000年度比20%削減、原単位で同45%削減を目指し、生産、輸送・営業（車両）、営業（自動販売機）、オフィスの各部門で温室効果ガス削減目標を設定して削減活動を始めました。本計画の特徴は「全員参加」にあり、これまで生産や車両に偏りがちだった対策を、オフィス活動や自動販売機の選定・運用にまで広げて、全員で徹底して温室効果ガスの排出削減を目指しています。

地域に愛される企業を目指して

また私が経営者として、環境負荷削減とともに大切にしているのが地域への貢献です。地域の皆さまに支持される企業として、CCWJグループ全体のあるべき姿を考えた結果、地域環境対策積立金の活用により、学校ビオトープ事業を中心とした幅広い環境教育支援、また、2005年9月に福岡市で開催される「第22回全国都市緑化ふくおかフェア」にも協賛します。今後もより良い環境への取り組み意欲をさらに啓発し、豊かな社会づくりに寄与していきたいと考えます。

今回の環境報告書では、環境負荷削減や地域支援のさまざまな取り組みのうち、特徴的なものを選んでご紹介しました。また、昨年に引き続き第三者審査を受審し、内容の信頼性と透明性の向上に努めています。

この報告書を通じて、私どもCCWJグループの取り組みをご理解いただくとともに、皆さまからのご意見を頂ければ幸いに存じます。

代表取締役
社長兼CEO　末吉紀雄

豊かな循環型社会の実現へ

私たちが目指す人と社会と自然との調和

CCWJグループは、豊かな自然環境を守り、はぐくみ、次世代につないでいくという強い意志のもと、地域に根差したさまざまな活動を行っています。目指す姿は、すべての活動が「環境好感度 No.1企業」へとつながっていく、人と社会と自然が調和した理想的な循環型社会の実現です。

Coming up!

2005年9月から開催される全国都市緑化ふくおかフェアを支援！

CCWJグループは博多湾東部の人工島「アイランドシティ」で開催される「全国都市緑化ふくおかフェア」において、会場内にビオトープを設置するとともに、清涼飲料の販売から空容器の回収・処理までを一括して行います。アイランドシティの将来を見据えた、緑豊かな潤いのある都市づくりを支援していきます。

◆地域の発展に役立ちたい

支援自動販売機

自動販売機の売上金の一部を地域の活動資金やイベント資金とする「支援自動販売機」システムを展開しています。当社が発案したこのシステムは、行政、スポーツ団体、各種イベントの新しい支援方法として全国のボトラーで活用されています。

●詳しくは⇒P7をご覧ください。

環境支援自動販売機のイメージ

◆さわやかな風を街に届けたい

エコドライブ・エコカー推進

製品配送や空容器回収に使用する車両には、環境にやさしいハイブリッド車や天然ガス車を積極的に導入し地域環境に配慮していきます。また、エコドライブ、販売システムの効率化により温暖化防止にも取り組みます。

●詳しくは⇒P16をご覧ください。

天然ガス車

◆子どもたちが自然とふれあう

学校ビオトープ

ビオトープとは「野生生物のすむ場所」のこと。私たちは人と自然が調和した社会を目指し、小学校へのビオトープ設置を支援しています。子どもたちは自然の大切さや豊かさをそこで実感しています。

●詳しくは⇒P8をご覧ください。

ビオトープで遊ぶ子どもたち

◆100%再資源化を目指して

リサイクルシステム

ペットボトルや缶、びんは飲み物を入れるために必要なものです。私たちはお客さまが飲み終わった後の空容器を回収・分別・リサイクルするシステムを整備し、資源の循環利用を促進する社会を目指します。

●詳しくは⇒P19～20をご覧ください。

北九州さわやかリサイクルセンター

Eco Report 2005

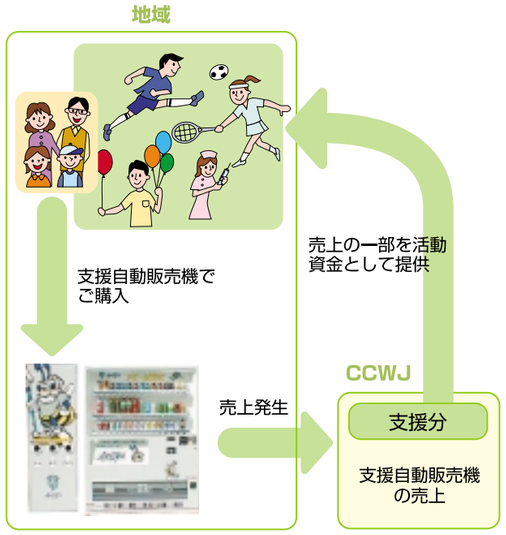
地域社会と共存する、私たちの事業と環境活動

CCWJグループでは、地域環境支援活動の一環として、地域社会におけるさまざまなサポート活動を展開しています。その代表的なものとして、「支援自動販売機」と「学校ビオトープ事業」をご紹介します。

CCWJが発案した「支援自動販売機」

CCWJは、自動販売機の売上の一部を地域の事業やイベント等の活動資金に還元し、お客さまとともに地域活動を支援していく「支援自動販売機」システムを考案しました。この支援方法はコカ・コーラグループ全体で活用され、全国の地域支援活動へと広がっています。

支援自動販売機による地域支援活動の仕組み



2005年2月現在、中国地区と北九州地区で270台設置されています。

創る過程が大切「学校ビオトープ事業」

地域環境対策積立金を活用した「学校ビオトープ事業」を、教育現場における地域環境活動の中心として取り組んでいます。私たちはビオトープを建設して提供するのではなく、ノウハウや資金面の支援を行い、児童・先生・保護者・地域住民の皆さまにビオトープの設計から施工・完成まで取り組んでいただいています。

これまでに19の小学校で設置

中国地区／井口明神小、吉島小、岡南小、段原小、馬屋上小

九州地区／大池小、東箱崎小、那珂南小、川平小、香椎東小、宇美小、花見小、南丘小、那珂小、若久小、舞松原小、志免東小、池田小、若園小

Coming up!

2005年10月 ビオトープ・フォーラム開催！

過去3カ年のビオトープ設置校の関係者を招いて、福岡市でビオトープ・フォーラムを開催します。ビオトープを通じて知った自然に触れる大切さ、新しい発見について発表し、パネルディスカッションなども実施。さらなる充実を目指していきます。

私たちの事業と環境とのかかわり

地球にやさしい事業活動を目指して

私たちは、自らの事業活動がどのような環境負荷を与えているのか理解し、その認識のもとで、CCWJグループ全体での省エネルギー、省資源、リサイクルなどの環境保全活動に取り組んでいます。

生産活動（製造）

プロダクツ
本郷工場
鳥栖工場
基山工場

ニチベイ

鷹正宗

清涼飲料などを製造しています。電力や重油などのエネルギー、水、原材料等が使われ、CO_2、廃棄物などが排出されています。

●詳しくは⇒P15、P21～P22をご覧ください。

輸送・営業（車両）活動

CCWJ　ロジコム　ビバレッジ　ベンディング

工場から支店に製品を運んだり、支店からお得意さまに製品をお届けしています。車両燃料としてガソリンや軽油が使われ、CO_2やNO_x、SO_xが排出されています。

●詳しくは⇒P16をご覧ください。

環境マネジメント活動

CCWJグループの環境保全の取り組みを支えるグループの仕組みです。生産活動（製造）からリサイクルまで、CCWJグループの一連の業務すべてに関係しています。

●詳しくは⇒P12をご覧ください。

社会貢献活動

環境教育支援や地域美化活動など、地域の皆さまの活動をさまざまな側面からサポートしています。

●詳しくは⇒P23～P24をご覧ください。

営業・オフィス活動

CCWJ　ロジコム　ビバレッジ
ベンディング　プロダクツ　カスタマー
WJS　ニチベイ　鷹正宗

事務のほか、製品管理やメンテナンスなど自動販売機にかかわる活動をしています。自販機で電力、オフィスで電力・都市ガス・LPGが使われ、主にCO_2が排出されています。

●詳しくは⇒P17～P18をご覧ください。

回　収

CCWJ　ロジコム
ビバレッジ　ベンディング

飲み終えた空容器をリサイクルするために回収しています。こまめな回収で空容器回収ボックス周辺の環境美化にも努めています。

●詳しくは⇒P19～P20をご覧ください。

リサイクル

CCWJ　ロジコム　ビバレッジ　ベンディング

「北九州さわやかリサイクルセンター」を中心とするリサイクルシステムで、回収した空容器を分別し、再生容器や再生資材の原材料としています。

●詳しくは⇒P19～P20をご覧ください。

事業活動での投入、排出、回収・リサイクル

製造からリサイクルまでの事業活動において、目的に応じてさまざまなエネルギーや資源が投入され、CO_2や廃棄物などが排出されています。

投入したエネルギー・資源

・購入電力量	490,868 千kWh
・重油使用量	20,531 kℓ
・都市ガス・CNG使用量	24 kℓ
・LPG使用量	439 t
・ガソリン使用量	2,187 kℓ
・軽油使用量	7,215 kℓ
・原材料投入量	69,669 t
・資材投入量	88,163 t
・水資源投入量	3,773 千m^3

排出物

・温室効果ガス排出量	316,444 t-CO_2
・SO_x排出量	252 t
・NO_x排出量	213 t
・廃棄物排出量	34,762 t
・最終処分量	7,360 t
・排水量	2,854 千m^3

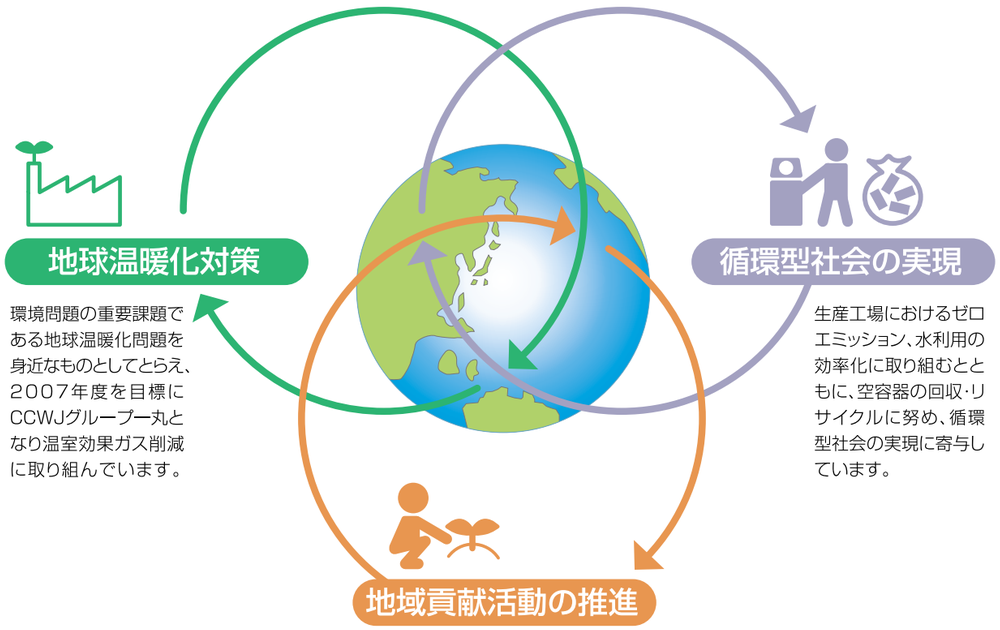
※工業用水の取水後自然放流分は含みません。

回収・リサイクル

・空容器自社回収量	17,441 t
・有価物選別量	7,474 t
・フロンガス回収・破壊量	3,631 kg

3つの視点を基本にした 私たちの取り組み

CCWJグループでは「環境好感度No.1企業」を目指し、ISO14001（eKOシステムを含む）の運用のもとで、「地球温暖化対策」「循環型社会の実現」「地域貢献活動の推進」の3つの視点から、さまざまな取り組みを実施しています。



「地域環境対策積立金」などをもとに、子どもたちを中心とした環境教育支援のほか、環境美化、緑化、その他さまざまな地域活動を支援しています。

グループ一体となって地球環境の保全に努め、豊かな社会の実現に貢献します。

「地球温暖化対策」「循環型社会の実現」「地域貢献活動の推進」を支えるグループの仕組み

●環境マネジメントシステム

環境マネジメントシステムは、国際規格のISO14001に代表されるような、業務によって生じる環境負荷を低減するよう配慮・改善する仕組みです。2004年度までにグループ内9社中7社が認証取得しました。2005年度以降もニチベイなど取得企業を増やしていきます。

CCWJグループ　ISO14001認証取得済み7社

CCWJ　プロダクツ　ビバレッジ　ベンディング　カスタマー　ロジコム　WJS

コカ・コーラ独自の「eKOシステム」も導入

CCWJグループは、コカ・コーラシステムで環境負荷削減と経営効率の向上を目指す「eKOシステム」を含んだ内容でISO14001を運用しています。

環境への取り組みの評価

平成16年度福岡市環境保全功労者賞を受賞

山崎市長から表彰状を授与される末吉社長兼CEO

CCWJグループの「温室効果ガス削減計画の策定」や「学校ビオトープの設置」など積極的な環境保全活動が評価され、福岡市より表彰を受けました。事業所としては九州電力に続き3社目になります。

全世界6代表ボトラーの1つに選出

月1回の電話会議と年2回のフルミーティングに参加

CCWJグループの環境活動が国内外で高く評価され、コカ・コーラの環境分野の戦略会議（CCEC）に参加するボトラーの1つに選出されました。今後、グローバルな見地から環境問題を協議していきます。

優れた活動にはCCWJ独自の表彰制度

環境ポスターの優秀作品12点は環境カレンダーに掲載

環境負荷削減への取り組みを積極的に促進するため、2004年度より「環境表彰制度」を導入しました。事業所部門では温室効果ガス削減活動を125拠点で実施、個人部門では環境ポスターに1,145点の応募がありました。

基山工場が2004年度の品質表彰第1位に

トロフィーを手に喜びの工場長（右）

2004年度コカ・コーラ品質表彰において、基山工場が日本のコカ・コーラシステム32工場中、品質・環境・安全衛生の総合評価で全国第1位となりました。外部審査員を含めた厳正な審査に基づくもので、鳥栖工場、本郷工場も上位にランクされました。

地球温暖化対策

温室効果ガス削減計画

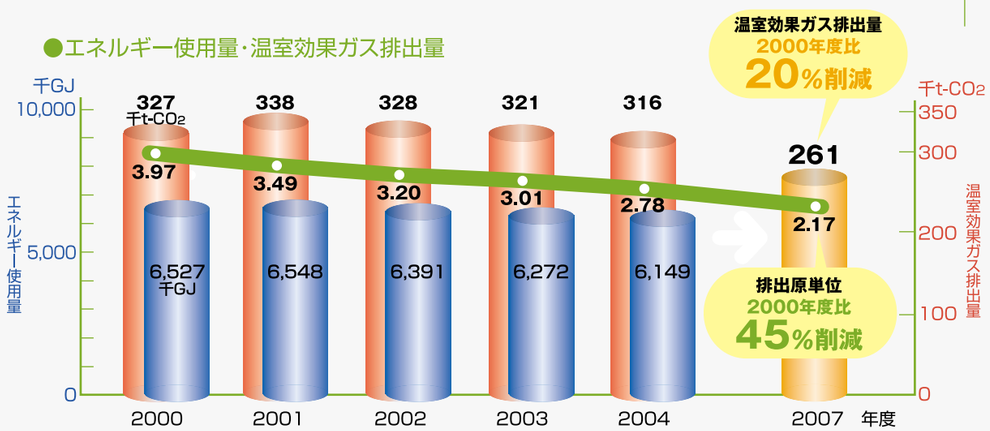
温室効果ガス削減計画に沿った活動を開始

CCWJグループでは、主な環境負荷を水の使用、エネルギーの使用、廃棄物の発生の3点と認識し、削減に取り組んできました。地球温暖化対策の重要性の高まりに伴い、より効果的に対策を講じるため、エネルギー使用量の削減対策を中心とした「温室効果ガス削減計画」を策定し、活動を開始しました。

DATA

京都議定書では日本は2008年～2012年の温室効果ガス排出量を1990年度比で平均6%削減することが求められています。私たちは議定書の履行年を前倒しして、2007年までに温室効果ガス排出量を2000年度比20%削減、原単位で同45%削減を目指しています。

●エネルギー使用量・温室効果ガス排出量



※CO_2排出係数は該当地域の電力会社から公表される年度別数値（2004年度は2003年度係数）を採用しています。
※飲料自動販売機の電力消費に伴うCO_2排出量を含めています。　※原単位=CO_2排出量（kg）／生産量（Uケース）　※1Uケース=約5.68ℓ
※2004年9月に「温泉効果ガス削減計画」の見直しを実施しました。
※2007年度目標値は部門目標値合計に追加施策をした数値となっています。

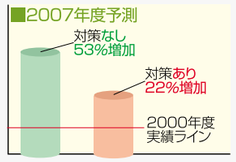
部門別削減目標と2007年度までの取り組み内容

温室効果ガスの排出はエネルギー使用に伴うものです。そこでCCWJグループでは、エネルギーの使い方に応じて、業務を4部門に分類。それぞれの部門で、温室効果ガス削減計画を策定し、社員の取り組みと会社の対策の両面から実行しています。

生　産

目標値 2007年度までに 増加22%以内（2000年度比）

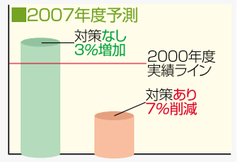
エネルギー使用量を監視するシステムや天然ガスコージェネレーションシステム（2005年度に鳥栖工場）を導入します。社員はムダ・ムラの徹底的な削減に取り組みます。



輸送・営業（車両）

目標値 2007年度までに 7%削減（2000年度比）

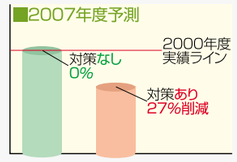
2005年度、国土交通省の制度を利用しトラック大型化によるCO_2削減の検証実験を行います。2007年度までに車両の20%をエコカーや低公害車にするとともに、社員のエコドライブを促進します。



営業（自動販売機）

目標値 2007年度までに 27%削減（2000年度比）

2006年度までにすべてエコベンダーに切り替えるとともに、超省エネ自動販売機の導入比率を35%まで高めます。社員はこまめな手入れを行い、自動販売機の省エネに貢献します。

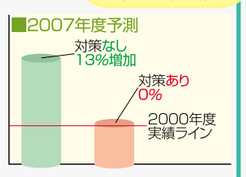


※エコベンダー：1997年以降導入されたピークカット機能を持つ自動販売機
※超省エネ自動販売機：1997年に比べ電力消費量が2分の1の自動販売機

オフィス

目標値 2007年度まで 現状維持（2000年度比）

照明機器や空調設備の更新を積極的に行うとともに、環境教育により社員の環境意識向上を図ります。社員はアイデアを出し合い日常生活における省エネに取り組みます。



地球温暖化対策

生産部門の取り組み

課題 「エネルギー使用を効率化する」

最近、人気が高まっている「お茶」。風味よいお茶を製造するためには、多くのエネルギーを必要とします。私たちは「お茶」の需要が増加する中、さまざまな工夫で製造現場での省エネに取り組んでいます。

[社員の取り組み]

一人ひとりの高いスキルで生産効率アップへ取り組む

充実した社員教育のもと、高いスキルを持った社員が充填設備や梱包設備などの運転率向上、製造ラインの歩留まり向上、予防メンテナンス強化など、生産効率を上げるさまざまな工夫を行っています。

予防メンテナンス強化

[会社としての取り組み]

全工場に省エネ型照明を導入して、電力使用量を削減

本郷、鳥栖、基山工場では、自然光を取り入れるとともに、使用していた水銀灯、蛍光灯を省エネ型照明に転換しました。1,000台以上の照明を転換した結果、照度を維持しつつ電力使用量を削減することができました。またエネルギー監視システムを導入し、リアルタイムで無駄なエネルギー使用を徹底的に分析しています。

省エネ型照明のコスト対効果 1日使用時間を15-18時間として、転換後稼働日数で算出

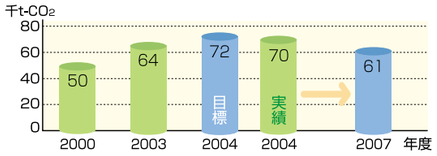
投資額 **7,051万円** 費用額 **494万円**

経済効果 **562万円**

省エネ型照明の導入によるCO_2削減効果 **149t-CO_2**

温室効果ガス削減計画の2004年度目標を達成

3工場合計で目標を達成しました。本郷工場、鳥栖工場は生産量がほぼ予測どおりで目標を達成。基山工場は無菌充填ラインの生産量が予測値の12%増となり、目標をわずかに超過しました。



生産部門の温室効果ガス排出量

輸送・営業（車両）部門の取り組み

課題 「製品配送で各地を走る車も、環境にやさしく」

製品をいち早くお客さまにお届けしたい。しかし、そのために使用する車両は温室効果ガスやNOx、SOxを排出します。私たちは運転方法と車両の両方から、排出量削減に取り組んでいます。

[社員の取り組み]

CCWJ独自のエコドライブも実施

「エコドライブ」とは、停車時のアイドリングや急発進しないなどによって、無駄な燃料消費を抑える運転方法です。私たちは、上り坂でエアコンを切る、積む営業資材を最小限にするなど独自のエコドライブを実施し、燃料消費削減に取り組んでいます。また、優秀なドライバーを表彰する制度も設け、意識向上に努めています。

ロジコムジャパン（株）
エコドライブ社長賞
長門支店 岡藤洋平さん（左）
直方支店 藤川昭治さん（右）

[会社としての取り組み]

燃費を改善する装置装着で燃料使用量を削減

CCWJグループでは、天然ガス車やハイブリット車などのエコカー導入をすすめるとともに、車両の温室効果ガス排出量を削減する取り組みをしています。例えばロジコムジャパン（株）では、保有する大型トラックとトレーラー計10台に燃費向上や排気中の黒煙等を削減する「燃料改質装置」を装着しました。この装置により軽油使用量を削減し、温室効果ガスの削減に貢献しました。

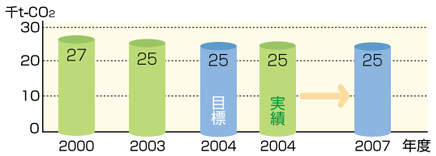
燃料改質装置のコスト対効果

費用額 **131万円** 経済効果 **18万円**

燃料改質装置の装着によるCO_2削減効果 **96t-CO_2（年間）**

温室効果ガス削減計画の2004年度目標を達成

営業所からお得意さまを回る貨物車の走行距離は増加しましたが、エコドライブの徹底などにより削減目標を達成しました。例えば、西日本カスタマーサービス（株）では、車両の増加を機に社員の運転を見直した結果、車両（軽油）の燃費は8.9km/ℓに向上しました。



輸送・営業部門の温室効果ガス排出量

地球温暖化対策

営業（自動販売機）部門の取り組み

課題 **「自動販売機でも環境に貢献。業界屈指の環境配慮型自動販売機を導入」**

潤いのある快適なシーンのそばには、いつもコカ･コーラの自動販売機。私たちは手入れの行き届いた、最新の環境配慮型自動販売機でお客さまに製品をお届けしています。

［社員の取り組み］

こまめな点検と清掃で自動販売機の省エネアップ

コンプレッサーなどが汚れていると電気を多く消費します。そこで定期的に自動販売機を点検・清掃し、電気の無駄遣いを防いでいます。また、通常のワックス掛けとは別に「レッド作戦」として年間目標を設定し清掃をしています。お客さまにさわやかさをお届けするためにも自動販売機のメンテナンスに力を入れています。

コンプレッサー清掃

［会社としての取り組み］

保有する自動販売機の83%がエコベンダーへ

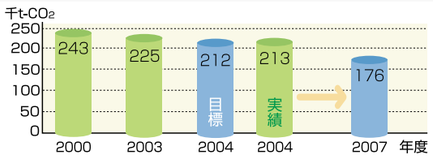
夏場の電力消費ピーク時に電気の使用をカットする「ピークカット機能」や、断熱効果が優れた素材を用い冷却効率が大幅にアップしたエコベンダーを積極的に導入しています。廃棄となる自動販売機のフロンを回収･破壊するとともに、ノンフロン型への切り替えを進めています。

エコベンダーの環境保全コスト

費用額 **1億3,506万円**（新規導入台数×1万円（環境配慮コスト））

温室効果ガス削減計画の2004年度目標にわずかに及びませんでした

2004年度も環境配慮型自動販売機の導入と更新を進め、自動販売機全体での電力消費量について2003年度より6%削減を目指しましたが、5%削減にとどまり、残り1%分が目標に達しませんでした。



営業（自動販売機）部門の温室効果ガス排出量

オフィス部門での取り組み

課題 **「社員全員で環境好感度No.1企業を目指して」**

環境への取り組みは、工場や車や自動販売機だけではありません。オフィスでも温室効果ガス削減のためにできることはたくさんあります。私たちは皆、そのための活動や工夫に取り組んでいます。

［社員の取り組み］

社員一人ひとりが省エネ努力に励んでいます

私たちが実施しているのは、昼休みや不使用時のまめな消灯や、できるだけ自然光を取り入れた照明の工夫です。また、照明器具やエアコンフィルターなどの清掃もこまめに実施しています。これらは社員に徹底され、当たり前の活動になってきています。

［会社としての取り組み］

ボランティア参加することで体験する「環境教育」

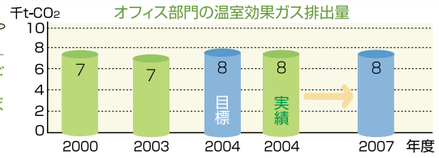
社員は景観保護とリサイクルをテーマとした「赤とんぼの街づくり運動」にボランティアスタッフとして参加しています。環境イベントの参加を通じて環境意識向上が図られています。

環境教育の実施

費用額 **2,160万円**　延べ教育時間 **6,352時間**

温室効果ガス削減計画の2004年度目標を達成

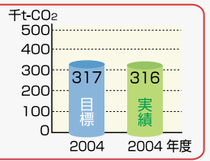
社員各自の省エネの努力により、電力やその他のエネルギー消費が予測値内にとどまったことにより、目標を達成しました。



温室効果ガス削減計画 2004年度実績

社員一人ひとりの努力で目標値を達成

2004年度温室効果ガス排出量は温室効果ガス削減計画で定めた目標値を下回り、初年度目標を達成することができました。部門別に見ると、自動販売機の設置台数が増加した営業（自動販売機）部門で目標値をやや超える結果となりましたが、生産部門におけるコージェネレーションシステム導入の効果や、オフィスにおける取り組みなどからグループ全体での目標値達成となりました。



循環型社会の実現

空容器の100%再資源化を目指して

空容器を自主回収し、再資源化を促進

CCWJグループは飲料メーカーとして限りある資源を有効活用するため、お客さまが消費した後に発生するペットボトル・缶・びんなどの空容器を自主回収し、再資源化を促進しています。2003年11月には、北九州市若松区の「北九州さわやかリサイクルセンター」が稼働を開始し、年間最大1万トンの空容器リサイクルが可能となりました。

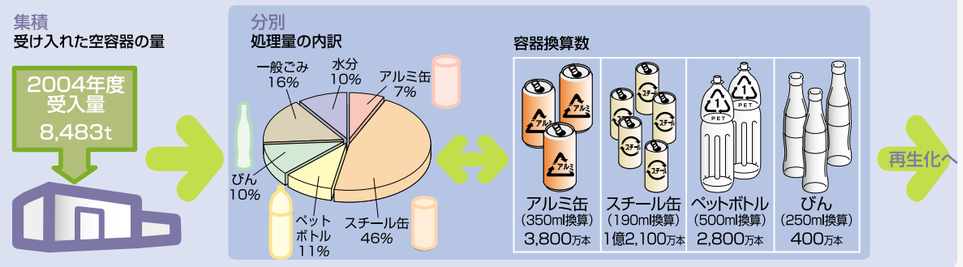
北九州さわやかリサイクルセンター

空容器を再生させる北九州さわやかリサイクルセンター

営業マン、専門サービスマンによって回収された空容器は、リサイクルセンターで、リサイクルできるように処理されます。リサイクルセンターが、空容器を生き返らせるための橋渡しをしています。

北九州さわやかリサイクルセンターが再資源化した空容器

受け入れた空容器は分別され再資源化されます。



リサイクル時に発生するごみ問題

リサイクルセンターには空容器とともに回収ボックスに混入しているたばこの吸い殻や弁当箱なども運ばれてきます。空容器をリサイクルするために、これら混入物を取り除き、一般ごみとして処理しなくてはいけません。私たちは、皆さまのごみ分別などのご協力をいただき、飲料メーカーとしてリサイクルを推進していきたいと考えています。

回収物に含まれる一般ごみの処理コスト	費用額	2,156万円	一般ごみの処理重量	1,372 t

循環型社会の実現

ゼロエミッションへの取り組み

課題 **「工場で発生する廃棄物を、廃棄物のままにしない」**

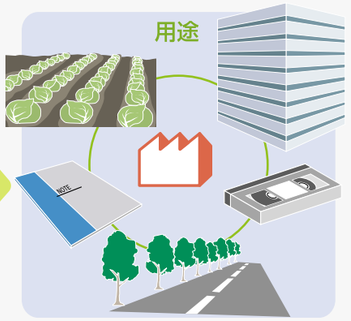
工場で毎日発生する廃棄物は、そのままだと焼却されるか埋め立てられて、二度と活用されることはありません。私たちは、『ごみがごみにならない』循環型社会を目指して、工場の廃棄物が廃棄物にならない取り組みをしています。

循環型社会を目指し、リサイクル

循環型社会を目指し、工場で排出される廃棄物のリサイクルに取り組んだ結果、本郷工場、鳥栖工場、基山工場でゼロエミッション（全廃棄物のリサイクル率99%以上）を達成しました。リサイクルされた廃棄物は、さまざまな用途で私たちの周りに戻ってきます。

排出

種　類	発生量	リサイクル率	再生利用
コーヒー・茶かす	30,136t	100%	有機肥料
汚泥	2,730t	100%	再生鋼材
金属類	282t	100%	再生カレット
ガラス類	146t	100%	再生プラスチック・燃料棒
廃プラスチック類	385t	57%	段ボール・再生紙
紙類	717t	90%	路盤材など
その他	169t	82%	



リサイクル率：**99.2%** ゼロエミッション達成

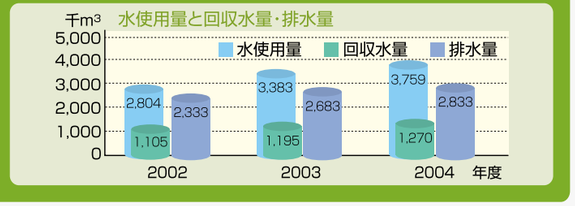
水資源の有効活用

課題 **「飲料にかかわる企業として、水を大切にする」**

飲料にかかわる私たちが水資源を守るのは当然のことです。水を使うときも、排出するときも、水資源に対する配慮を怠りません。

繰り返し使って水資源を保全

清涼飲料を製造する過程で、製品を冷却する水が必要になります。本郷・鳥栖・基山の工場では、冷却水の水質を一定に保つとともに循環利用できるシステムを整備し、水資源の有効利用に取り組んでいます。2004年度は用水の3分の1を回収し、水資源を節約しました。



自然に返す水もきれいにする

工場からの排水は、さまざまな処理設備で浄化して排出しています。その結果、工場の排水は国や市町村よりも高レベルで法規制を遵守しています。

水質測定結果

工場名	放流先	測定項目	規制値	実績値（最大値）
本郷工場	一般河川	COD	50.4mg/ℓ	20.8mg/ℓ
	一般河川	BOD	29mg/ℓ	20.0mg/ℓ
鳥栖工場	一般河川	BOD	40mg/ℓ	2.5mg/ℓ
	下水道	BOD	600mg/ℓ	357mg/ℓ
基山工場	一般河川	BOD	30mg/ℓ	11.3mg/ℓ

グリーン購入

環境に配慮した製品の購入促進

CCWJグループは環境に配慮した製品を優先的に調達するため2004年6月に「グリーン調達実施要領」を制定し、循環型社会形成に向けた取り組みを推進しています。

単位：千円

	紙類	文具類	被服	オフィス家具	空容器回収ボックス
グリーン製品購入額	13,052	7,450	38,325	40,860	45,350
グリーン購入率	78%	39%	89%	96%	100%

地域貢献活動の推進

環境教育支援

課題 「子どもたちに環境の大切さを伝える」

自然に触れる機会の少ない現代の子どもたちに環境の大切さを伝えるには、工夫を凝らした楽しい教育の場が必要です。CCWJグループでは毎年、内容を充実させながら環境教育イベントを実施してきました。私たちの環境教育支援活動における参加者は、最近の3年間で延べ8,000人を突破しています。

●自然に触れる大切さを学ぶ

学校植林事業

「どんぐりの森をつくろう」をキャッチフレーズに、子どもたちにどんぐりの苗木の里親になってもらう地域環境活動です。苗木の生長を見守り、大きくなった後は山に植樹することを通じて、自然に触れる大切さを学んでもらいます。

どんぐりの苗木を山へ植樹（福岡市）

エコサイエンスに参加した子どもたち（北九州市）

●体験しながら環境を考える

コカ・コーラエコサイエンス

CCWJの営業エリア内の小学生64名が参加して、島根県と福岡県で環境体験学習「コカ・コーラエコサイエンス」を開催しました。島根県では水資源の大切さを学ぶため、宍道湖で水辺の生物や水の特性を学習。福岡県では地球環境の大切さを学ぶため、動植物や昆虫とともに宇宙の仕組みを学び、またリサイクルや省エネについても勉強しました。

水辺の生物を観察（松江市）

地域美化活動

課題 「地域の美化に貢献する」

職場や営業エリアを取り巻く身近な環境の美化が進むことを願って、CCWJグループの社員は、家族や地域の皆さまとともに、身近な地域の美化にも取り組んでいます。

公共場所の清掃

●毎月8日は全員で清掃活動

コカ・コーラクリーンデー

CCWJグループでは、毎月8日を「コカ・コーラクリーンデー」と定め、グループの全事業所で周辺の道路・公共場所の清掃活動を実施しています。地域社会と歩む企業としての感謝の気持ちを込め、各事業所とも所員全員で空容器、その他のごみ回収、除草、溝掃除などを行っています。

事業所周辺の清掃

●全国規模の地域美化活動

ラブアース・クリーンアップ

環境省が後援して毎年6月に開催される地域環境美化活動「ラブアース・クリーンアップ活動」には、CCWJグループも趣旨に賛同して、社員とその家族に参加を呼びかけています。2004年度は、佐賀県下で約100名、広島市で約100名、福岡市で約400名がグループから参加しました。

大濠公園（福岡市）

広島県庁周辺（広島市）

環境会計

CCWJグループでは、環境経営を評価し改善していくために事業活動ごとの環境会計を導入しています。環境保全活動に投入された費用と効果を下表にまとめました。表中の参照ページにおいて、より詳細な取り組み内容を記載しています。

対象範囲：CCWJグループ9社　対象期間：2004年1月1日～2004年12月31日

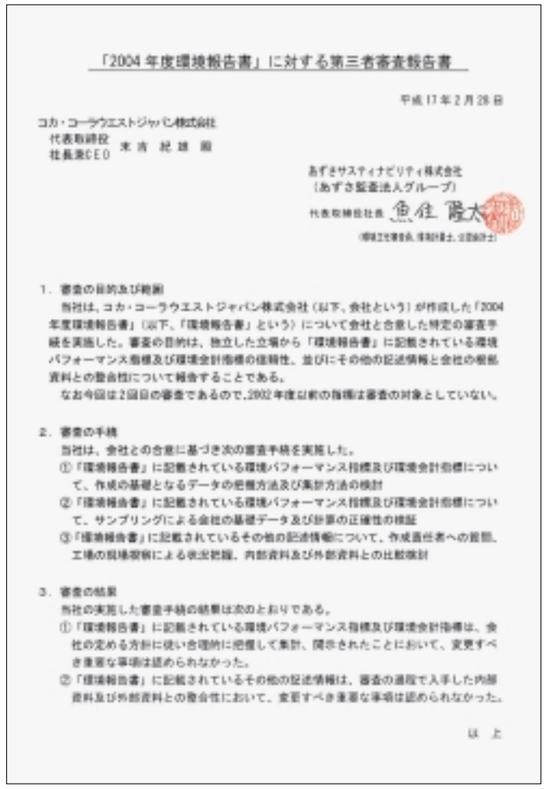
事業活動	活動内容		環境保全費用（千円）		経済効果（千円）		参照ページ
生産活動	温室効果ガス削減・水使用削減・廃棄物削減の取り組みなど			503,355		109,976	
		エネルギー監視システム運用	47,904		—		P15
		省エネ型照明への転換	4,935		5,624		P15
		コージェネレーションシステム運用（本郷工場）	—		67,083		
		廃棄物処理活動	123,640		3,711		P21
		用水回収・排水処理活動	312,503		33,558		P22
		汚染負荷量賦課金など	14,373		—		
輸送・営業（車両）活動	燃料使用量削減、排気中の有害物質削減の取り組みなど			6,464		1,484	P16
		ハイブリッド車・天然ガス車の導入・使用	5,159		1,302		
		燃料改質装置の装着	1,305		182		
営業・オフィス活動	環境配慮型自動販売機の導入、廃自動販売機フロン処理			194,088		—	
		エコベンダーの導入	135,060		—		P17
		廃自動販売機適正処理、フロン回収・破壊など	59,028		—		
回収・リサイクル	空容器の回収・リサイクル			1,022,674		190,890	
		北九州さわやかリサイクルセンター運用	255,006		171,318		P19～21
		うち 一般ごみ処理費用	(21,563)		—		
		回収空容器処理委託	464,923		—		
		容器包装再商品化委託料など	302,745		19,572		
環境マネジメント活動	ISO14001等の構築・運用、社員環境教育の実施			94,358		—	
		社員環境教育	21,598		—		P12
		環境マネジメントシステム構築・運用など	72,760		—		
社会貢献活動	地域社会への貢献			80,203		—	
		地域環境対策積立金を活用した活動（学校植林事業、コカ・コーラエコサイエンスなど）	31,055		—		P6、8、23
		コカ・コーラクリーンデー・エコロジースクールなど	49,148		—		P24
合計				1,901,142		302,350	

地域環境対策積立金：CCWJグループでは株主の皆さまのご理解を頂き、毎年の利益処分の中から1億円を原資として積み立て、地域環境美化、緑化活動や環境活動の支援に充当しています。また2005年9月開催の「全国都市緑化ふくおかフェア」の協賛にも地域環境対策積立金を活用します。

［集計・開示について］

参考ガイドライン等	環境保全費用・経済効果の把握方法等については環境省「環境会計ガイドライン2002年版」を参考にしています。 ただし、表示分類は環境保全活動をより深く理解していただけるよう事業活動を軸として分類としています。
環境保全費用	複合コストの計上方法　：原則的には差額集計を採用していますが、必要に応じて按分集計、簡便集計を採用しています。 減価償却費の計上方法：環境保全関連設備の耐用年数や償却方法は基本的に財務会計と同一としています。 人件費の計上方法　　：環境保全活動における所要時間に全従業員の年間平均人件費単価を乗じて算出しています。
経済効果	環境保全活動に伴う収入額・節減額を計上しています。 見なし効果については、根拠が十分でないことから計上していません。

第三者審査報告書



「2004年度環境報告書」に対する第三者審査報告書

平成17年2月28日

コカ・コーラウエストジャパン株式会社
代表取締役
社長兼CEO　来吉 紀雄 殿

あずさサスティナビリティ株式会社
（あずさ監査法人グループ）
代表取締役社長　魚住 隆太

1．審査の目的及び範囲
当社は、コカ・コーラウエストジャパン株式会社（以下、会社という）が作成した「2004年度環境報告書」（以下、「環境報告書」という）について会社と合意した特定の審査手続を実施した。審査の目的は、独立した立場から「環境報告書」に記載されている環境パフォーマンス指標及び環境会計指標の信頼性、並びにその他の記述情報と会社の根拠資料との整合性について報告することである。
なお今回は2回目の審査であるので、2002年度以前の指標は審査の対象としていない。

2．審査の手続
当社は、会社との合意に基づき次の審査手続を実施した。
①「環境報告書」に記載されている環境パフォーマンス指標及び環境会計指標について、作成の基礎となるデータの把握方法及び集計方法の検討
②「環境報告書」に記載されている環境パフォーマンス指標及び環境会計指標について、サンプリングによる会社の基礎データ及び計算の正確性の検証
③「環境報告書」に記載されているその他の記述情報について、作成責任者への質問、工場の現場視察による実査観察、内部資料及び外部資料との比較検討

3．審査の結果
当社の実施した審査手続の結果は次のとおりである。
①「環境報告書」に記載されている環境パフォーマンス指標及び環境会計指標は、会社の定める方針に従い合理的に把握して集計、開示されたことにおいて、変更すべき重要な事項は認められなかった。
②「環境報告書」に記載されているその他の記述情報は、審査の過程で入手した内部資料及び外部資料との整合性において、変更すべき重要な事項は認められなかった。

以　上

CCWJグループの「2004年度環境報告書」は、社員や部門の課題と取り組みを明確にすることで、「温室効果ガス削減計画」の目標達成への道筋を示し、活動の促進を図ったものとなっています。また地域環境対策積立金、空容器や廃棄物に対する取り組み、そして第三者審査の受審など継続する活動からも、環境経営の着実な歩みが読み取れます。今後も、全員参加でCCWJグループならではの環境経営を実施されることを期待します。

あずさサスティナビリティ株式会社　取締役 福島隆史

環境保全活動への取り組み

	コカ・コーラウエストジャパングループの動き（緑色） 世界と日本の動き（黒色）
1992年	エコ・リサイクルステーション導入（中国エリア） 環境と開発に関する国連会議（地球サミット）開催
1993年	ラブアース・クリーンアップ参加
1994年	コカ・コーラ環境教育財団が設立され、加盟／環境配慮型自動販売機導入
1996年	ISO14001環境マネジメントシステム制定
1997年	空缶選別プレス車テスト導入／エコベンダーの導入 気候変動枠組条約第3回締約国会議（COP3）開催
1998年	環境対策室を設置／環境委員会を設置／環境宣言を発表／コカ・コーラクリーンデーを開始／ゼロエミッション達成（本郷工場・鳥栖工場・基山工場）
1999年	全工場でISO14001認証取得／地域環境対策積立金活動を開始 改正省エネ法発効
2000年	CCWJ本社部門でISO14001認証取得／環境報告書の発行 エコルート導入（福岡市） 環境会計ガイドライン発表　　容器包装リサイクル法完全施行 循環型社会形成推進基本法制定　　食品リサイクル法制定 改正廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行
2001年	グリーン購入ガイドラインの制定／ISO14001認証取得（ロジコム一部） 環境報告書ガイドライン発表
2002年	環境会計を導入（環境報告書で開示）／エコルート導入（長崎市） 持続可能な開発に関する世界首脳会議（ヨハネスブルグサミット）開催 日本が京都議定書批准
2003年	ISO14001認証取得の拡大 （CCWJ営業所部門・ベンディング全事業所・カスタマー一部） 北九州さわやかリサイクルセンター竣工および運営開始 環境報告書の第三者審査受審／eKOシステムの導入 第3回世界水フォーラム開催
2004年	温室効果ガス削減計画策定／環境表彰制度の導入 平成16年度福岡市環境保全功労者賞受賞 コカ・コーラ環境カウンシル（CCEC）に選出 ISO14001認証取得の拡大（ビバレッジ全事業所・WJS全事業所） CCWJグループさわやかエコドライブの取り組みを開始 CCWJグループグリーン調達実施要領の制定 ロシアが京都議定書批准（2005年2月16日京都議定書発効）

コカ・コーラウエストジャパングループ

ご意見・ご感想は、下記までお聞かせください。

コカ・コーラウエストジャパン株式会社　CSR統括部 環境推進部
〒812-8650　福岡市東区箱崎七丁目9番66号　TEL 092-641-9118　FAX 092-641-9128　ホームページ http://www.ccwj.co.jp/

PRINTED WITH SOY INK™
R100 古紙配合率100%再生紙を使用しています